

(原文はインドネシア語。同英訳を和訳)

2018年11月5日

国際協力銀行 (JBIC)

代表取締役総裁 前田 匡史 様

インドネシア西ジャワ州テレボン石炭火力発電事業 1号機、および、2号機に関する貴行職員との会合についての意見書

この度は、貴行職員が私たちラペル (Rapel, Rakyat Penyelamat Lingkungan : 環境保護民衆) と 2018年 11月 28日、もしくは、29日に会合を持たれたいということをお断りいただき、この書簡を書いてお断りしております。貴行からご丁寧にもこのような機会に招待していただいたことは感謝致しております。しかしながら、以下の理由から私たちは今回の会合に対して気が進まない、つまり、会合を持ちたくないと思っていることを恐縮ではございますが、はっきりとお断りさせていただきます。

まず、現時点で同事業に対する貴行とラペルの立ち位置が異なることから、残念ながら貴行と私たちとの間での建設的な話し合いは期待できないと考えます。2017年 10月 19日に行われた貴行との会合の経験から、貴行が私たちと会合を持つ目的は、私たちの懸念や意見を聞くことではなく、同事業や CEP/CEPR 社が提供する CSR プログラムを受け入れるよう私たちを説得することにあることは明らかです。何度も繰り返しお断りしているように、私たちは未だに同事業に反対しており、CSR プログラムは私たちにとって真の答えでも解決策でもありません。今現在、私たちが最高裁判所で二回目の訴訟を続けていることは、私たちが同事業に反対し続けているという明らかな証拠の一つです。なぜ私たちが同事業に反対し、CSR プログラムが真の解決策ではないと考えるのか疑問があるのであれば、私たちがこれまでに提出した書簡や異議申立書を注意深く読んでいただければ、貴行に今一度要請致します。

二つ目に、私たちは、CEP/CEPR 社やその他の同事業推進派のステークホルダーがこの機会を利用して、ラペルが JBIC と会合を持っているのはラペルが反対運動を諦めたからだとか、同事業にすでに賛成したからだとか、あるいは、JBIC から金銭提供の申し出があったからだ等の噂を流し、私たちのコミュニティを更に分断しようとする可能性があるのではないかと懸念しています。貴行はそんなことを考えるのは馬鹿げていると仰るかもしれませんが、しかし、私たちが直面しなければならない現地の事情や神経を張り詰めてはいけないうような状況を理解していただければ大変幸いです。

最後に、貴行がこの 11 月にチレボンを再び訪問されるのであれば、棧橋・港湾施設を含めた現在の建設工事がすでにどれほど私たちのコミュニティに影響を与え、小規模漁業者たちの生活をさらに困難にしているのかということ綿密に調査することを強く勧めます。1 号機の為の沿岸地域における棧橋・港湾建設作業が、私たちの地域の漁業活動に甚大な悪影響を及ぼしてきたことを私たちは何度も言い続けてきました。全く同じ状況が今現在 2 号機 の事業現場で起きており、小規模漁業者からは魚やエビを獲ることが難しくなっているとの苦情が聞かれます。何度も申し上げますが、私たちの地域の小規模漁者らは CEP/CEPR 社が提供する CSR プログラムが必要なのではなく、漁業活動のために健全な沿岸環境を必要としており、それが真の解決策なのです。

よって、現在私たちの二回目の訴訟が最高裁判所で進んでいる一方、私たちはいかなる平和的手段を使ってでも同事業を中止させるという、決して折れることのない意思を貴行に注意喚起させていただきます。

貴行のご理解とご配慮に感謝致します。

(ラペル・チレボンのメンバー2名による署名)

Cc:

JBIC 環境ガイドライン担当審査役